

## 第45回 セルフケア事例検討会 レポート

平成30年6月30日にいわきの新田目病院さんから事例を提供していただき、舞子浜病院にて事例検討会を開催しました。参加者は33名で、事例に関わっていらっしゃる作業療法士や精神保健福祉士の方の参加もあり、さまざまな視点で事例を考えることができました。

ミニレクチャーでは「リカバリー、ストレングスモデルについて」という内容で看護学部の田村よりレクチャーをいたしました。レクチャーを通し、常日頃、患者さんのためと思い失敗させまいと患者さんにやってあげてばかりになっていたり、患者さんの問題点ばかりに目が向きがちになっていたりしていることに気がつかされ、「患者さんを人として信頼することの大切さ」や「その人の力を引き出す関わり」が大切であること、またその力を活かして関わっていけるよう日々の関わりを見直していきたいという声が多く聞かれました。

事例検討会は、病識がなく治療しようとする意欲が乏しい患者さんに対してどのように関われば治療意欲が向上できるか悩んでいる事例を提供していただきました。過去に治療を中断し症状再燃を繰り返していたため、医療者としては何とか退院後も治療が継続できるよう、病識をもってもらいたいと熱心に関わっていました。退院には「病識」が必要と考えがちですが、患者さんはどのような生活を望んでいるのか、どのような思いでいるのか、患者さんの問題にばかり目を向けず、患者さんの視点に立ち一緒に考えることで新たな関わりを見いだすことができました。日ごろ関わっている看護師さんたちに加え、多職種の方の視点もいただけたことで、より事例を深めることができました。事例を提供していただいた方々だけでなく、参加していた人それぞれが大きな気づきをした時間となりました。

